

琉球大学学術リポジトリ

マーチの相互学習モデルにおける組織メンバ数2、現実の成分数2の場合のすべてのロックイン・プロセス

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2008-09-12 キーワード (Ja): 組織学習, マーチの相互学習モデル, 均衡プロセス キーワード (En): 作成者: 志村, 健一, Shimura, Kenichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7188

マーチの相互学習モデルにおける 組織メンバ数 2、現実の成分数 2 の場合のすべてのロックイン・プロセス

志村健一（琉球大学観光産業科学部 産業経営学科）

1. はじめに

March[1]により提案された組織学習モデル(以後マーチの相互学習モデルと呼ぶ)について考える。ここでは高橋[2]により定式化されたマーチの相互学習モデルをもとに、メンバ数 2、現実の成分数 2 の場合について、志村[3]により求められた表示 1 のすべての初期状態に対し、2 の表示方法に基づいて、ロックインまでのプロセスを図示したものを示す。

2. 表示方法について

ここでは、組織の状態を表すのに、図 1 から図 6 のように、楕円を使用した。楕円の中は、組織メンバを行で表し、組織メンバの確信を四角で囲み、その上に組織コードを載せる。網掛けの部分は優秀グループを示す。組織の初期状態は実線の楕円で示した。初期状態の楕円の外に示した数値は行列を入れ替えてできる異なる初期状態の数である。また均衡は実線の二重楕円とし、非均衡ロックインは二重の点線楕円とした。途中の状態は点線の楕円で示される。また初期値が非均衡ロックインの場合は、内楕円を実線で、外楕円を点線で示すこととする。

矢印は状態間の推移の可能性を示す。図中では、組織コード学習は実線の矢印で、組織メンバ学習は点線の矢印で示す。途中の状態では、いずれの学習でも、確信が変化しないことがあり、これは同じ楕円自身に戻る矢印として示せよう。しかし自分自身に戻る矢印は図の煩雑さを避けるため省略した。

3. すべてのロックイン・プロセス

表示 1 で示した 27 パターンのロックイン・プロセスを 2 の方法で図示し、図 1 から図 6 とした。図 2 においては、「パターン 2'」として「パターン 2」の行を入れ替えたものを示した。これにより、各パターンの行列を入れ替えたものは、対応するパターンのプロセス図の行列を同じように入れ替えれば得られることがわかる。

参考文献

- [1] March, James G.: "Exploration and exploitation in organizational learning", *Organization Science*, pp.71-87, Vol.2, (1991)
- [2] 高橋伸夫: "組織ルーチンと組織内エコロジー", *組織科学*, pp.54-77, Vol.32, No.2, (1998)
- [3] 志村健一: "マーチの相互学習モデルにおけるロックインプロセスについてー組織メンバー数 2、現実の成分数 2 の場合ー", *日本経営システム学会誌*, Vol.25, No.1 (2008)

表示 1. すべての初期値のパターンについて

(a) 均衡ロックインのみのパターン

パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
1 1	0 1	-1 1	0 0	-1 0	-1 -1	1 0	1 -1
1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	0 1	0 1

(b) 非均衡ロックインを含むパターン

パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
-1 1	-1 1	0 0	-1 0	0 -1	-1 -1
0 1	-1 1	-1 1	-1 1	-1 1	-1 1

(c) 非均衡ロックインのみのパターン

パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20	パターン21
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
-1 0	-1 -1	1 -1	-1 -1	0 -1	-1 -1	-1 -1
0 1	0 1	-1 1	0 0	-1 0	-1 0	-1 -1

(d) すべての0の成分を含むパターン

パターン22	パターン23	パターン24	パターン25	パターン26	パターン27
0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
1 0	0 0	-1 0	-1 0	-1 0	0 0
1 0	1 0	1 0	0 0	-1 0	0 0

(イ) 均衡ロックインのみの場合

(ロ) 非均衡ロックインのみの場合

(ハ) 0のみの場合

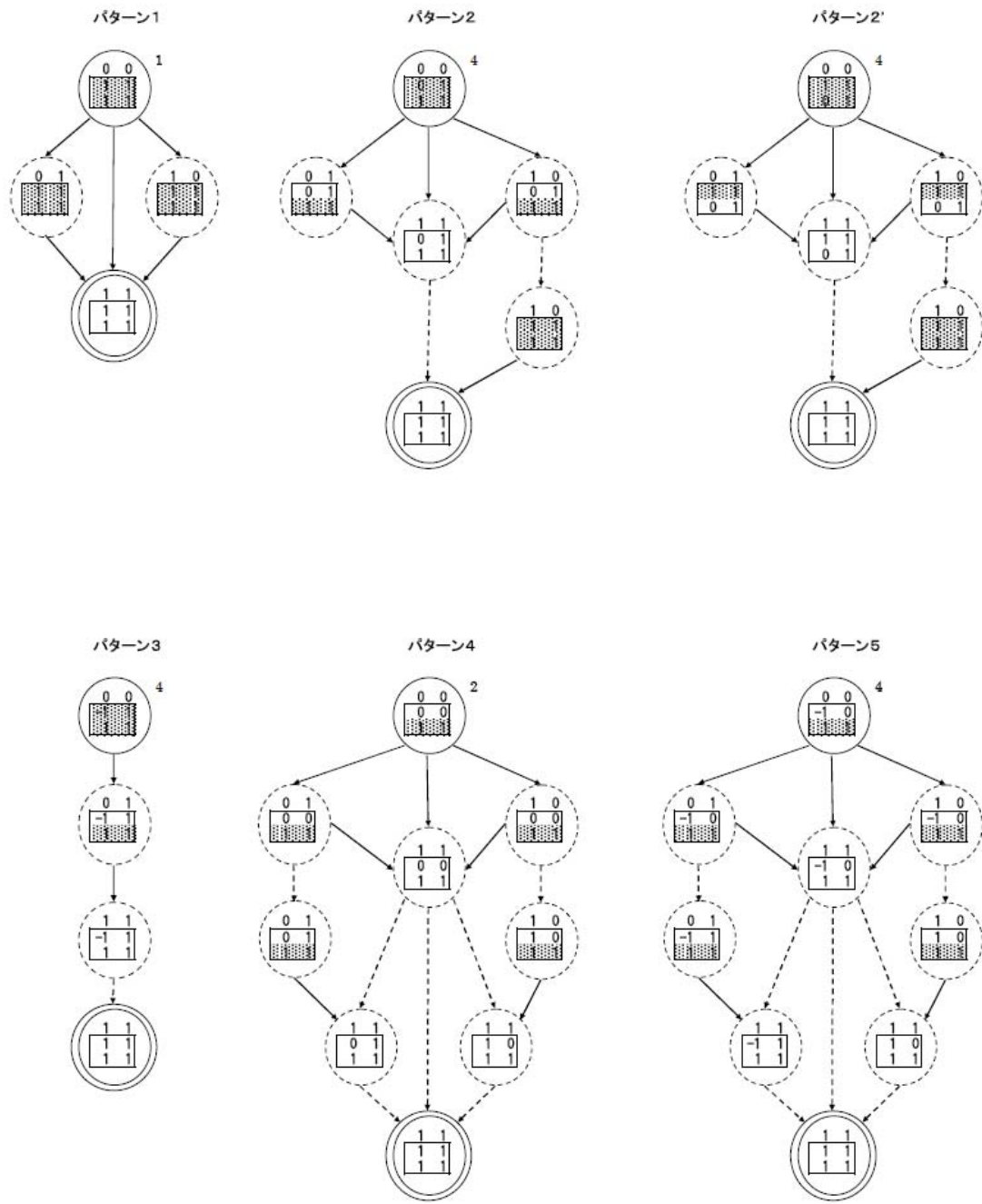


図1. 均衡ロックインのみのパターン(その1)

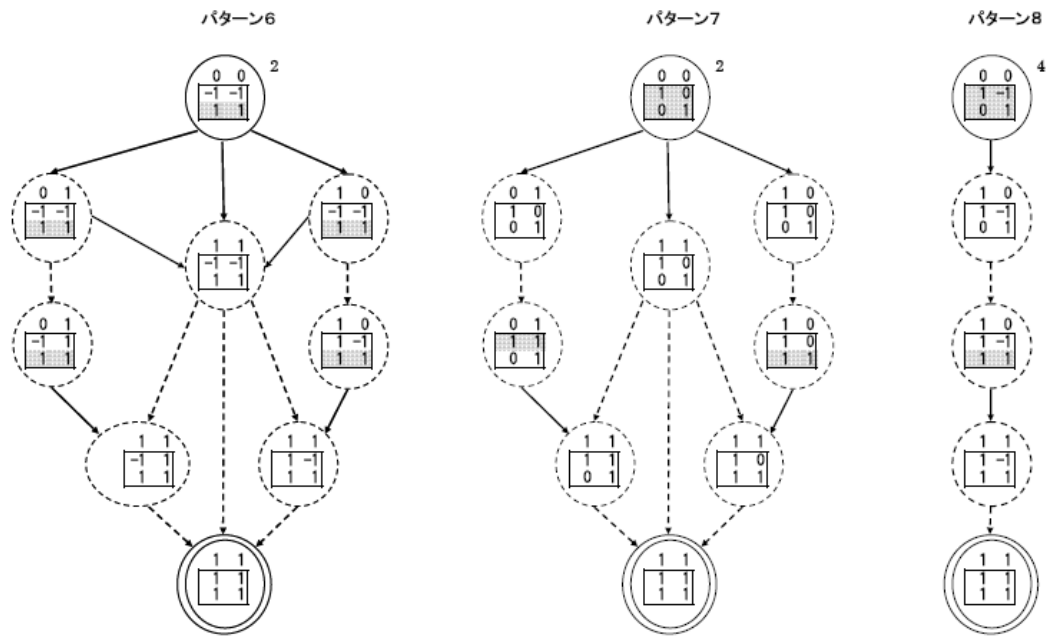


図2. 均衡ロックインのみのパターン(その2)

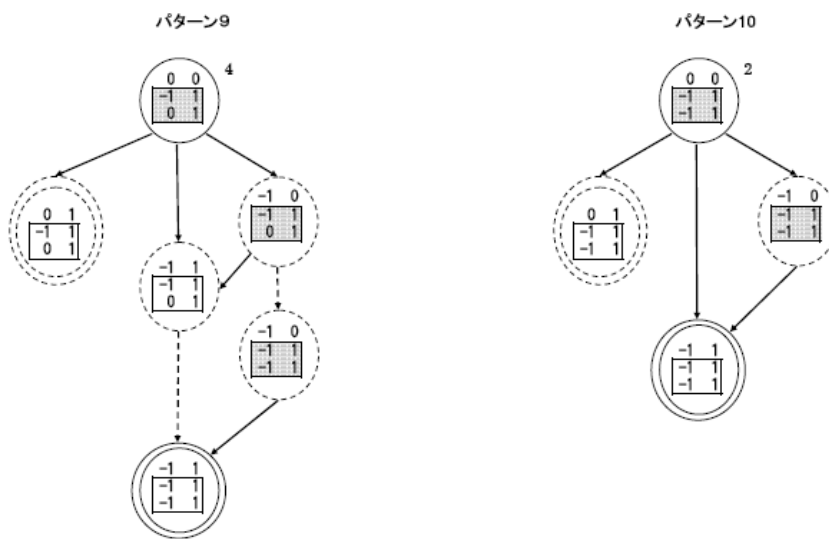


図3. 非均衡ロックインを含むパターン(その1)

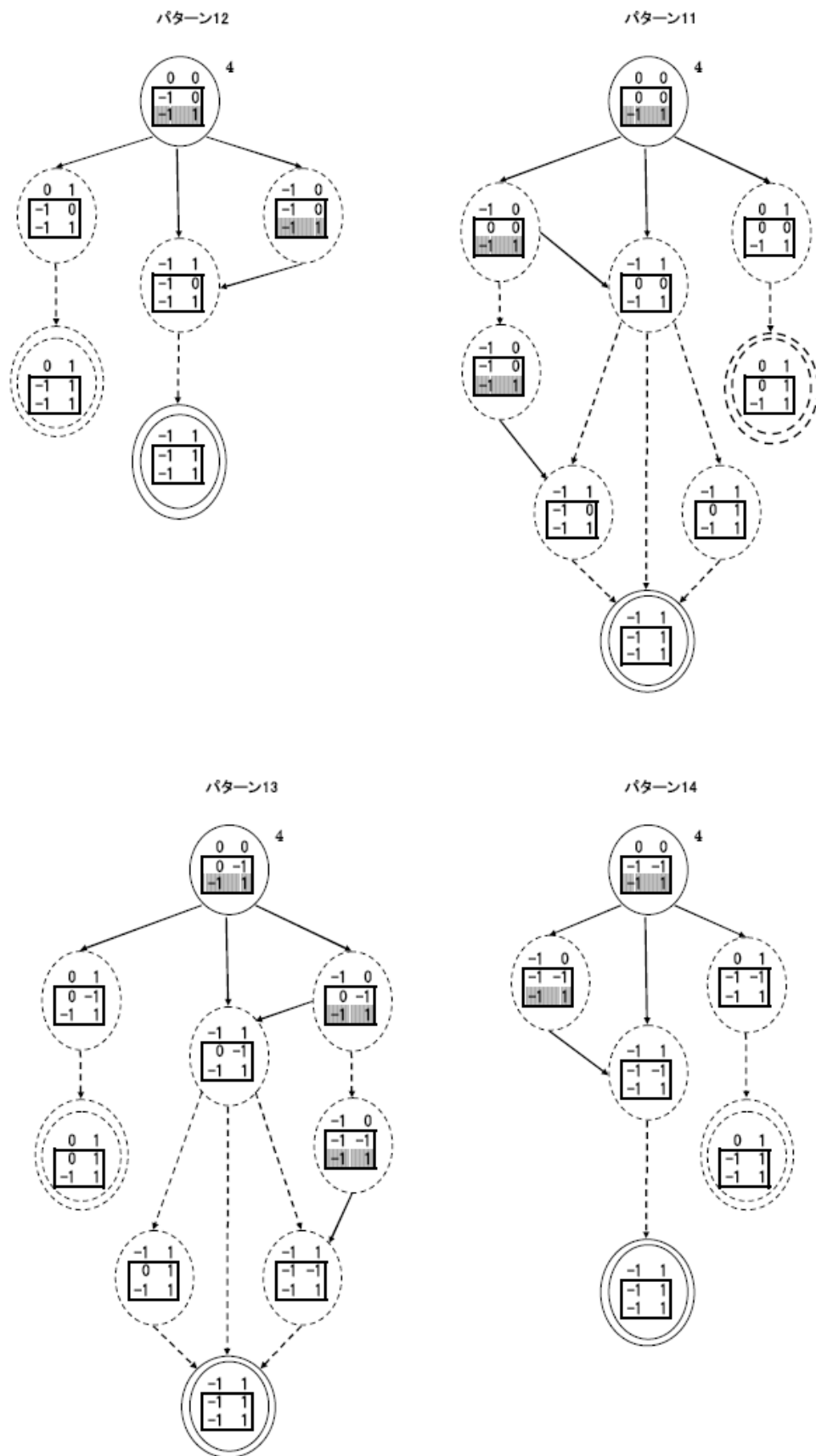


図4. 非均衡ロックインを含むパターン(その2)

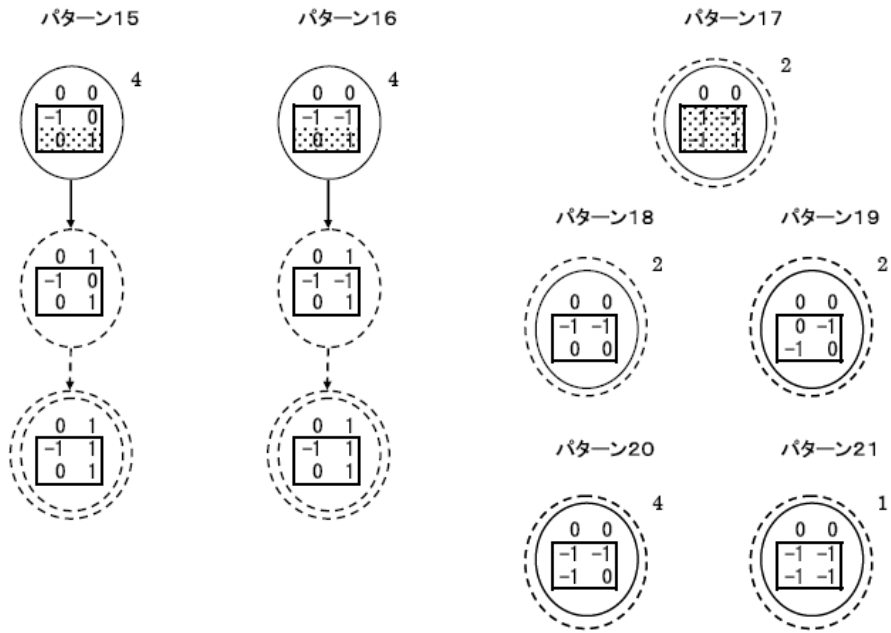
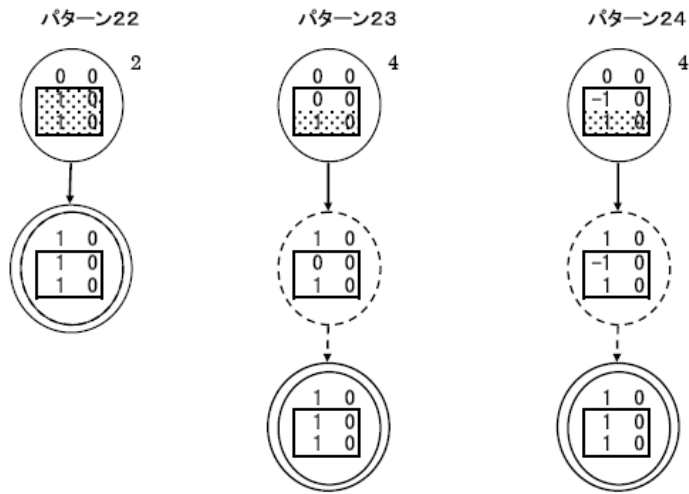


図5. 非均衡ロックインのみのパターン

(イ) 均衡ロックインのみのパターン



(ロ) 非均衡ロックインのみのパターン

(ハ) 0のみのパターン

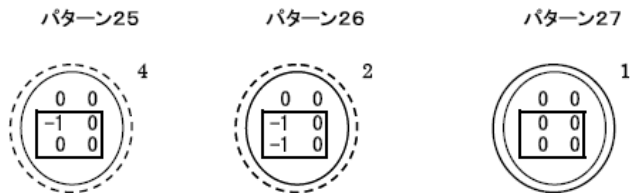


図6. すべて0の成分を含むパターン